

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成29年7月24日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科

職名・学年 博士後期課程3年

氏名 池内香織

助成の種類	平成29年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	The 21th International Conference on Cancer Nursing 2017 (第21回国際がん看護学会学術大会)		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Exploring the effects of Mindfulness-based Music Therapy on disease-free Breast Cancer Survivors		
開催場所	アメリカ合衆国・カリフォルニア州・アナハイム		
渡航期間	平成 29 年 7 月 10 日 ～ 平成 29 年 7 月 14 日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円	
	使用した助成金額	200,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	参加登録料 \$395(約45,000円)	
		航空券(往復) 153,170円	
		宿泊費 1泊18,000×3泊=54,000円(日本にて支払い)	
宿泊費 \$56(現地にて支払い 約6,500円)			
	現地での交通費 10,000円		
		上記 268,670円のうち、200,000円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今年度のICCNは米国カリフォルニア州での開催であり、渡航費や滞在費が高く、経済的理由で参加することに躊躇しておりましたが、貴財団の助成を受けることができ、参加することが可能になりました。国際学会発表にご支援くださいましたことに心より御礼申し上げます。		

成果の概要

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
博士後期課程 3年 池内香織

【学術集会の概要】

学術集会名：The 21th International Conference on Cancer Nursing 2017

(第 21 回国際がん看護学会学術大会)

開催場所：アメリカ合衆国・カリフォルニア州・アナハイム

開催期間：2017年7月9日~7月12日

International Conference on Cancer Nursing は国際的ながん看護の学術集会の 1 つであり、毎年 30 か国以上から臨床の看護師、大学の教員や研究者、学生などが集い、世界各国の研究成果の発表や、さまざまな教育講演や交流セッションが行われている。

今回の学術集会のテーマは“merging research and practice across the globe”であり、エンドオブライフケアの教育、症状マネジメント、意思決定支援、ヘルスプロモーション、サバイバーシップなど、がん看護分野で課題となっていることに関する活発な討議が行われたほか、質的研究や量的研究、国際研究の実践報告、学術論文の投稿に関するワークショップなど、研究方法や研究成果の発表等に関しても学ぶことが多い内容であった。

【研究発表の概要】

発表題目：Exploring the effects of Mindfulness-based Music Therapy on disease-free Breast Cancer Survivors

がんサバイバーにとって、治療中の副作用対策のみならず、治療終了後の苦痛な症状を緩和し、QOL を維持・改善することは重要である。倦怠感や再発の不安などは、治療終了後の乳がんサバイバーにおいて認められる症状の 1 つである。音楽介入が、がん治療による身体的・心理的苦痛を軽減し得るという研究成果が増えているが、音楽の介入方法がさまざまであり、プログラム化された研究は少ない。そこで今回、乳がんサバイバーに対するマインドフルネスを基にした音楽療法(Mindfulness-based Music Therapy)による効果を明らかにすることを目的とした介入研究を行った。1 回/週×12 週間の音楽療法の介入前後と介入終了後 3 か月後の時点で倦怠感、不安・抑うつを測定し、介入後の時点で不安得点は全参加者が減少し、介入終了後 3 か月後の時点で、倦怠感と不安・抑うつの得点すべてが減少あるいは維持しており、マインドフルネスを基にした音楽療法は、乳がんサバイバーの倦怠感、不安および抑うつ状態を改善する可能性があること、長期的効果があることが示唆されたことを報告した。

マインドフルネスは禅の思想をもとにしているが、研究や実践はわが国よりも欧米の方が非常に盛んに行われており、学会参加者からは本研究のマインドフルネスを用いた介入手法に興味を持っていただき、貴重な意見やご質問をいただくことができた。今回得られたご指摘やご

助言は、介入プログラムの改善や、今後の研究活動に役立てたいと思う。

同じ関心をもつ国内外の研究者と交流することが、自己の研究の発展に大いに役立つことを実感するとともに、国際学会の参加による学びをより深めるためには英語力を高めることが課題であることも痛感した。この経験を活かして今後も研究活動に精進したい。

【謝辞】

今回の国際学会への参加、研究成果の発表は貴重な経験となりました。このような機会を与えてくださった京都大学教育研究振興財団に心より御礼申し上げます。